

# いわいずみ 議会だより Iwaizumi

ふるさと岩泉の  
**大家族**  
(関連記事 18頁)

2015  
8.1  
No.

**172**

発行 岩手県岩泉町議会



## 多くの方が議会を傍聴…2

新方式での一般質問始まる (7 議員が質問) …6

議員と語る会開催報告…14

# 議会を傍聴

6月定例会  
の  
あらまし

## 議会改革に

## 町民の目が光る



6月定例会は6月10日から12日までの3日間にわたり開かれました。  
一般質問では、7人の議員が地域活性化についてなど  
活発な議論を展開しました。  
条例改正と補正予算は特別委員会を設けて集中審査。  
その結果、請願1件は反対多数で不採択、そのほかの議案は全会一致で  
原案のとおり可決しました。

### 一般質問の傍聴者41人 近年では最高の人数

町の施策に対し、今までより掘り下げた質問ができるよう、6月定例会から一般質問の方法に一問一答（関連記事6頁）を導入しました。  
これに伴い、答弁する町側には反問権・反論権（※）が付与されました。  
過去3年間の一般質問傍聴者数の平均は約10人でしたが、新たな質問方法の導入により、41人が傍聴に訪れました。

### 基本条例の推進を検証

町民の意思を町政に反映させるため、検証しながら変わり続ける議会を目指して、議会基本条例推進委員会が設置されました。

委員長	佐々木久任
副委員長	坂本昇
委員	野館泰喜
委員	合砂丈司
委員	畠山直人

（※）本会議や委員会の議論を明確にするため、議員からの質問や質疑の内容が不明確等であった場合、町長等はその議員に対して質問の趣旨を確認することなどができるもの

# 多くの人々が熱心に



ささきやすみ  
佐々木保美さん  
(岩泉・68歳)

## 今までにない内容の濃い議論

6月定例会から導入された一問一答による一般質問を傍聴しましたが、今までにない内容の濃い議論でした。

議場での論議の結果が表れてくるのには時間がかかります。

議員と町当局は、もっともっと意見をぶっつけ合い、早急に岩泉型の産業を構築して欲しいと強く望みます。

## 広聴強化へ常任委員会化

「広報編集委員会」は「広報広聴常任委員会」に名称を変更し、役割を拡大する運びとなりました。

これは、議会の広報・広聴を担う委員会としての役割をより明確にし、議会基本条例に基づき、より開かれ

た議会にするための活動を積極的かつ責任をもって行うことを目的としています。

委員長 合砂 丈司  
副委員長 三田地久志  
委員 八重樫龍介  
委員 林崎寛次郎  
委員 野館 泰喜  
委員 坂本 昇

## 加藤久民議長が会長に就任

加藤久民議長が岩手県東部町村議会議長会の会長に就任しました。同議長会は、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村、普代村の5町村議会の議長で組織。町村行政に関する諸般の事項を協議し、議会を通じて地方自治の振興に寄与することなどを目的としています。任期は5月21日から2年間です。

## 第三セクター5社の決算状況の概要（26年度決算）

(単位：万円)

会社名	資本金	町出資金	町出資比率	経常損益	純損益
(株)岩泉総合観光	10,000	7,250	72.5%	867	635
(株)岩泉産業開発	42,600	37,000	86.9%	▲297	▲695
(株)岩泉きのこ産業	30,500	28,400	93.1%	8,605	7,067
岩泉乳業(株)	38,000	36,400	95.8%	8,435	9,364
(社)岩泉農業振興公社	4,500	3,750	83.3%	▲5,980	▲3,182

# デジタル無線を整備

## 町内全域をカバー

### デジタル防災行政 無線整備事業

- ▶ 事業費 4億4843万円
- ▶ 中継局整備 5局
- ▶ 陸上移動局 99局
- ▶ 移動系無線機 21局
- ▶ 配電設備工事負担金等



消防ポンプ自動車の行進（消防演習の様子）

条例補正予算審査特別委員会（三田地和彦委員長）では、条例に関する2議案と4つの会計の補正予算を慎重に審査し、付託された議案すべてを可決すべきと決定しました。委員会審査の中から、いくつかの質疑を要約してお伝えします。

**問** デジタルに変わることで、町内を全域カバーできるか。

また、葡萄森への送電線を釜津田側からではなく早坂側から引いてもらえないか。そうすれば、放牧地、管理小屋等に電気を通せるし、老朽化した牛の飲雑用水の施設も対処できる。

（佐々木久任委員）

**答** アナログでは中継局が2局だったが、今回のデジタル化で5局になるので全域をカバーできる。

送電については、早坂側は県立自然公園の区域内であり、架線の延長距離等の理由で釜

津田側からということになった。

**問** デジタルによって、停電時の対応がどのように良くなるのか。

また、一般の人でも受信可能か。

（坂本昇委員）

**答** 停電時は、72時間の分の燃料を積んだ発電機が作動する。その後給油することによって時間延長はできる。

一般の人は、これまでのように簡単に受信することはできない。

**問** 防災士の資格取得者は町内に何人いるか。防災会議に有資

格者から参加してもらうよう進めるべきだ。

（三田地泰正委員）

**答** 正確に把握していないが、小川に1人、役場に2人いる。今年度5人の追加を予定している。来年度以降は地区の防災士の育成に向けて計画を作っていきたい。

また、町防災会議の自主防災組織・学識経験者枠を1人から10人に拡大し、各地区の自主防災組織から町長が任命するよう条例を改正した。

## 風力発電の内容は 民間事業での計画

**問** 風力発電事業の行政報告があつたが、

本町との関わり、メリットはどうか。

そして、環境への影響等についても住民に説明してもらいたい。

(佐々木久任委員)

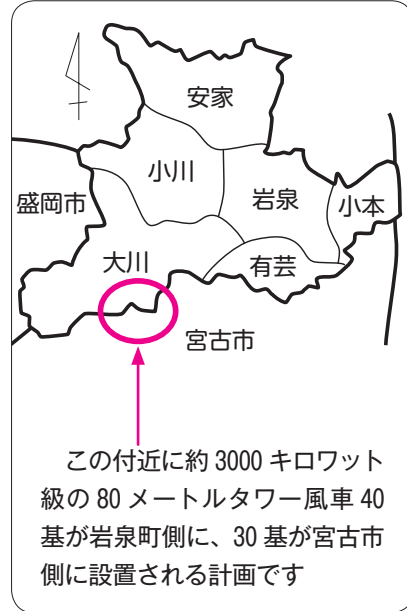
**答** 基本的に民間事業である。設置場所は、害鷹森および一杯森周辺の国有林が主で

全て借上げの予定と聞いている。

町では、縦覧、説明

会の会場手配等の協力をしていく。メリットは、固定資産税として1億円前後が入ると試算している。

今年度、環境影響評価を進める予定であり、7月頃に大川地区で説明会を開催する予定と聞いている。



## 惣畑地区の方向性は 都市計画の見直しを

**問** 遊休農地の増加に

対して、農地中間管理機構が農地の流動化を進めている。その中で、惣畑地区等は都市計画区域の指定があるため農地の流動化が妨げられている。

惣畑地区の都市計画の位置付けと方向性はどうか。

(三田地泰正委員)

**答** 昭和44年に策定された都市計画では

惣畑・川崎地区は工業地域であり、現在は不都合が出てきている。

惣畑・川崎地区は最大の開発可能地であるので、都市計画の大規模な見直しを行い、区画整理等の計画を作った上で、道路の整備についても考えていきたい。

## 古い岩泉30景の見直しを 新たな掘り起し取り組む

**問** 岩泉町三陸ジオパーク推進協議会

や岩泉観光ガイド協会が動きを見せてきている。以前創設した岩泉30景は寂れた所もある。

以前創設した岩泉30景は寂れた所もある。

り、再度、充実に向かうべきと思うがどうか。

(坂本昇委員)

**答** 確かに、20年くらい前に岩泉町観光



周辺の木々が大きくなり、看板位置から見えなくなっている丹洞

## 園芸耕作応援隊とは 出向いて農業支援を

**問** 園芸耕作応援隊とはどんな組織か。

(菊地弘巳委員)

**答** トラクターと耕運機を購入し、岩泉

農業振興公社を主に各関係団体と連携しながら、遊休地や高齢者等、自分の力だけでは作業が困難になっている農家を支援していく。

### 補正予算の主な内容

- ◇ 定住促進用地造成実施設計委託料 145万円  
森の越地区に宅地を造成し、子育て支援用として、より安価に分譲する予定です。
- ◇ 備品購入費 2617万円  
小本地区複合施設整備事業に関する備品一式を購入するものです。
- ◇ 岩泉きのご産業支援事業補助金 2225万円  
計量包装機等製造ラインの大幅な改善のため、補助対象事業費の半分を補助するものです。

協会が中心になって作り、町でガイドブックを発行している。その中には、施設が撤去されて存在しないものがでてきている。新しく作るか、絞るか、岩泉町観光協会にも働きかけながら、新たな観光スポットの掘り起しに努めたい。

皆さんからの

# 請願・陳情

6月定例会に提出された請願は1件でした。  
産業常任委員会に審査を付託し、本会議で次のとおり決定しました。

なお、陳情書1件は、議会運営委員会で協議し、議員と町当局へ資料配付しました。

## 不採択

■農協法改定をはじめとした「農業改革」に関する請願

▼請願者 岩手県農業協同組合労働組合 中央執行委員長 齋藤禎 弘

▼紹介議員 林崎竟次郎

## 一般質問 3つの方法

6月定例会から一般質問の方法を選択して試行することになりました。

### ▼一括質問

従来の質問方法。1回目は複数の質問を一括して行い、再質問は2回できます。時間の制限は、ありません。

### ▼一問一答

1回目は一括して質問しますが、2回目以降は一問ずつ質問します。制限時間は、答弁を含めて60分です。

### ▼全て一問一答

1回目から一問ずつ質問します。制限時間は、60分です。

## 町の考えを問う

# 一般質問

一般質問とは、議員が町長などの執行機関に対し、事務の執行状況や将来の方針などについて、所信や疑問をただすこと、あるいは報告や説明を求めることを言います。また、議員が主義、主張を述べ提案し論戦します。

結果として「現行の政策変更」や「新規政策を採用」させるなどの効果があります。

内容を要約して登壇順（質問順）にお知らせします。

なお、質疑全文を記録した会議録は、10月上旬ころから町立図書館または役場各支所図書室で閲覧可能となる予定です。

## 7人の議員が発言 ～質問内容～

- ①小川公共施設に配慮を
- ②四つの小学校を一つに
- ③1次産業振興に人材を
- ④CCRCの積極導入を

野館 泰喜 7p

- ①森林作業道の開設を
- ②さらなる農業振興を

三田地久志 8p

- ①振興協議会との協働実態は
- ②介護認定者に支援策を

坂本 昇 9p

- ①惣畑・川崎の道路整備を
- ②龍泉洞の水資源の確保を

八重樫龍介 10p

- ①振興協議会をどう評価
- ②炭鉱跡地を振興拠点に

菊地 弘巳 11p

- ①町長選に5選出馬すべき
- ②子育て支援に100万円を
- ③大川町営住宅の整備を

島山 直人 12p

- ①支援金で国保税を減額に
- ②高齢者医療費の無料化を

林崎竟次郎 13p



# 小川公共施設に配慮を

の だ て や す き  
野 舘 泰 喜 議 員  
(一問一答)

## 基本構想見直しに着手

伊達 町長

町の考えを問う

野舘泰喜議員 地区の中心施設として、以下の整備を要望する。

①町民バスの停留所と待合所、公衆トイレを敷地内に設置。②高齢者のために1階に椅子とテーブルの会議室。③営業許可がとれる調理設備。④芸能活動に対処できる防音室。⑤貴重な文書の保管庫。⑥放課後児童クラブに対応できるスペースの確保。⑦図書室。その他に小川診療所の継続。以上の実現性を問う。

伊達町長 平成25年度に保育園の移転改築と小川支所周辺用地の有効活用を含めた小川地区公共施設再編計画を策定した。子どもたちが生涯にわたって安心して暮らせる地域づくりに役立つ施設となるよう、基本構想の全体的な見直しを含め検討する。



公共施設の再編が待たれる現在の小川支所

### 四つの小学校を一つに

野舘議員 複式学級解消のために、小川地区の四つの小学校を一つに再編するべき。

三上教育長 平成27年3月に「岩泉町学校適正配置基本計画」を策定した。この内容を保護者および地域の皆さんを対象に説明会を順次開催し、合意形成に努める。小川地区の再編については選択肢の一つと考えている。

### 1次産業振興に人材を

野舘議員 1次産業の振興のため、人材の育成と招聘の両面から模索するべきと思うが。

町長 復興支援員制度を活用し、町内外に情報を発信しながら人材の確保に当たる。

### CCRCの積極導入を調査研究に着手する

野舘議員 CCRCとは、都会の高齢者が地方に移り住み、継続的なケア環境の下で、自立した社会生活を送ることが可能な地域共同体のことである。

火山噴火や地震、大雨等災害リスクが高まっている現在、本町の地盤の強固さや気象条件、豊富な農林水産物や多様な郷土食等、都会にアピールできる。

空き校舎を活用して、この実現に取り組むべきと思うがどうか。町長 国において、地方創生担当大臣の下、夏ごろには「日本版CCRC構想」の中間報告が発表される予定。本町の学校施設を活用した官製CCRCについては、地域独自の魅力をアピールすることで事業展開は可能だ。学校再編に伴う敷地や建物の活用も視野に入れ、調査研究していく。



# 森林作業道の開設を

三田地 久志 議員  
みたち ひさし  
〈一問一答〉

## 作業道の整備は有効

伊達町長

三田地久志議員 町では、世界基準のFSC森林認証に取り組み、また拡大をはかる事業を展開しているが、作業道の整備を併せて進め、道路網の整備を促進するべきと考える。

FSC森林認証に参加した山主には無償で作業道の開設を行うべきではないか。

伊達町長 平成15年にFSC森林認証を取得し、昨年度から私有林

においても拡大事業に取り組んでいる。

森林認証に参加した森林を対象とした作業道開設への支援については、適切に管理された森林の証である森林認証の拡大を推進していくために、基幹林道等に加え作業道の整備は有効であると認識をしている。今後も積極的に取り組むとともに、その他の森林整備事業を含めた総合的な



林業振興のためには作業林道が必要です

施策を推進していく。

### さらなる農業振興を 実証実験を行い検討

三田地議員 狭小な農地が多い本町では、国が進める農地集積は難しい。

そこで、各集落をまとめて集落営農に取り組み考えはないか。

さらに、閉校になった校舎の空き教室を利用して野菜栽培を行う考えはないか。

伊達町長 農地は、農業を営む基礎であることから、国等の制度を活用し、集積が可能な地区は規模の大小に関わらず集積を行い、必要とする農業者への貸出しを推進していく。

農業後継者は、集落営農のリーダーとなり得る可能性が高く、その育成に対する支援を検討していく。

また、町で地域おこ

しの切り札として推進している復興支援員制度を活用し、地域に深く踏み込み、組織化を含んだ支援の体制を構築していく。

閉校した校舎の空き教室における野菜等の栽培については、さまざまな角度から検討するとともに、地域ごとの気候や土壌などの諸条件に合った作目の選定を含め、実証実験を進めている。

新たな農業の展開をはかり、地域の農業者の意向を取り入れながら、なお一層農業振興に取り組んでいく。





# 振興協議会との協働実態は

さかもと のぼる  
坂本 昇 議員

〈一問一答〉

## 第二の公共を担う組織活動

伊達 町長

町の考えを問う



安家地区河川清掃の様子

**坂本昇議員** 明日が見える岩泉を築いていくためには地域振興協議会との協働が不可欠である。

①協議会の活動実態はどうか。

②協議会の報酬に関する基準は。

③復興支援員はどのような状況にあるのか。

**伊達町長** 地域振興協議会は、第二の公共を担う組織であり、最終的には自主運営できる組織となることを想定

している。

①現在、広範な地域課題に果敢に取り組んでおり、一定の成果が上がっている。

今後、さらなるニーズの掘り起こしを強化し、密度の濃いきめ細やかなサービス提供の充実をはかるため、支所職員の増員を検討する必要性を感じている。

②役員の報酬については、一定額を協働のまちづくり交付金で算定して協議会へ交付している。配分は各協議会に一任している。

③復興支援員については、広く募集しているが、地域振興協議会の活動支援に対する応募がない状況にある。地域を知り、地域に誇りを持つような支援員が必要なので、募集方法等を見直し、積極的に取り組んでいく。

### 介護認定者に支援策を 新制度の構築を検討する

**坂本議員** 介護認定者が870人を数え、そのうち100人以上がサービスを受けられていない。外出をしたくとも控えている人が40パーセントにも及ぶ。

また、町外の医療機関の治療を受けようとしてもその支援策がない。支援・対応策が必要と思うがどうか。

**町長** 家族などによる介護や支援、介護予防や老人福祉サービスの利用などでの対応により、在宅で身体等の状態を維持しながら過ごされている人もいます。サービスを受けられない人が生じないよう見守りや実態・状況の把握に取り組む。

外出する人へは「外出者支援サービス車運行事業」により、町内の医療機関までの移送サービスの利用促進を目的とした助成制度を行っている。

町外の医療機関を受診しようとする場合には、現在の制度では対応しきれない状況にあるので、「介護予防・日常生活総合支援事業」の検討・導入と併せ、新たな制度として構築していく。

### そのほかの質問

■安心安全な水源涵養かんようについて



# 惣畑・川崎の道路整備を

やえがし  
八重樫 龍介 議員  
〈一問一答〉

## 可能性を調査検討する

伊達町長

**八重樫龍介議員** 岩泉  
小学校前に子育て支援  
住宅12戸の建築が予定  
されているが、さらに  
若い世代の定住化およ  
び人口増加をはかるべ  
きである。

そのためには、宅地  
造成と若者の定住や雇  
用を促進するための住  
宅整備が必要不可欠で  
ある。このことから、  
惣畑・川崎地区の道路  
整備を行うべきと思っ  
て考えを聞く。

**伊達町長** 子育て世代  
を含めた若者が住める  
住宅の確保は、定住化  
を進める上で重要な要  
素の一つである。

新たな住宅、宅地の  
整備に併せ既存の町営  
住宅、教員住宅、使用  
できる空き家および民  
間アパート等の活用も  
検討するなど住宅対策  
を調査研究しているこ  
ろであり、方向性に  
ついては秋には報告し  
たい。

惣畑・川崎地区は、  
岩泉地域における住宅  
建築の候補地として有  
望なエリアと捉えてい  
る。地権者等の状況を  
把握しながら、その可  
能性について調査検討  
する。

### 龍泉洞の水資源の確保を 他団体の条例を参考に検討

**八重樫議員** 近年他の  
道県において、外国資  
本による目的不明の土  
地取引が行われ、後に  
乱開発のトラブルが起  
きています。  
転ばぬ先の杖ではな  
いが、龍泉洞の水資源  
の確保のために水源、  
水質や水量に影響を及



道路整備による惣畑地区のさらなる  
賑わいが期待されます（児童遊園）

ぼす恐れのある事業者  
が水資源に絡む土地取  
引などを行う場合に事  
前の届け出や自治体と  
の協議を義務づける  
「水源保護条例」の制  
定を行う考えはないか。  
**伊達町長** 龍泉洞の水  
は、ドラゴンブルーの  
地底湖を形成し、さら  
には住民の飲み水とし  
て利用している貴重な  
水である。  
水源、水質、水量に  
影響を及ぼす開発行為  
から龍泉洞の水を永久  
的に保全するため、環  
境省文化庁などの国の  
機関および県なども  
協議を重ね、どのよう  
な規制条項を制定でき  
るのか、他団体の条例  
等も参考にしながら、  
水源保護条例の制定に  
ついて慎重に検討する。



# 振興協議会をどう評価

きくち ひろみ  
菊地 弘巳 議員

〈一括質問〉

## 未来を拓く原動力と確信

伊達 町長

町の考えを問う



小川地区自主防災協議会本部訓練の様子

菊地弘巳議員 各地区の振興協議会は、地域の大きな問題や集落の課題などを住民が議論して解決している。また、各種行事やイベント等を計画し、積極的に取り組み大きな成果を上げている。

また、国では地方版総合戦略の策定を求めているが、町が策定している内容を示せ。

伊達町長 地域振興協議会は、住民主体の取り組みとして正に実践

されており、これまで進めてきたまちづくりの大きな成果の一つである。今後においても、本町の未来を切り拓いていくための原動力になるであろうと確信をしているところである。

地方版総合戦略は、人口ビジョンの分析と、その対策を現在検討しているところであり、仕事の創出、1次産業の人材育成および子育て支援を重点に策定を進めている。

### 炭鉱跡地を振興拠点に 介護サービス事業を模索

菊地議員 小川地域の高齢化が進み、高齢者の住宅、医療介護の施設等の確保が必要である。また、若者の雇用、定住化の促進のために企業誘致をはかるべきである。そのために広大な面積を有する小川炭鉱跡地を取得して振興拠点とすべきと思うがどうか。

また、本跡地に介護関係の施設ができると聞くがこの内容を示せ。  
伊達町長 今般、介護サービス事業者から炭鉱跡地を建設予定地として、事業を展開したい旨の話があった。現在、具体的な実施時期や施設の定員規模などについて検討を始めているとのこと。  
今後において、当該事業者から介護施設整備を進める意向の確認が取れた場合には、用地の一部取得や施設整備に伴う関係機関との協議等について、必要な手続きを進める。  
また、跡地の総合的な利活用については、その面積が広大であり、さまざまな方策が考えられる。  
地域の皆さんから意見を聞く中で、必要性を認識した場合には、活性化に資するべく活用方法を検討していく。

また、本跡地に介護関係の施設ができると聞くがこの内容を示せ。

今後において、当該



# 町長選に5選出馬すべき

はたけやま  
なあと  
**畠山 直人** 議員

〈一問一答〉

## 町政を担う覚悟はある

伊達町長

**畠山直人議員** 伊達町長の任期は、6カ月余りとなっているが、岩泉町の抱える課題は、山積している。伊達町

長の手腕と、切れ目のない町政運営が求められることから、12月25日任期満了に伴う町長選に、5選を目指し立候補の表明を示すべきである。

地域づくりに向け、命を懸けて責任をとらなければと思っている。これまでの町政運営を

総括し、町民の幸せを願ひ、志は高く、目録は町民に向け、5選目に挑戦したい。

## 子育て支援に100万円を効率的な対策を鋭意検討

**畠山議員** 子育て世代が減る限り、人口減少がどんどん進んでいく。伊達町長 被災した小

要であり、この層の声が行政や議会に届いていないことが、少子化や子育て環境を深刻化させた大きな要因と

思っている。子育て支援策として、本町に3年以上住した家族に第3子目から100万円の出産祝い金を支給する積極

また、町で宅地を造成し住宅建築希望者が、低価格で分譲することが、定住化につながると考える。

業と地方創生に絡めた

性

町長 第3子目から100万円の出産祝い

町長 第3子目から100万円の出産祝い



早期改築が望まれる町営住宅大川団地

金を支給することに關しては、効率的な対策について鋭意検討する。また、若者のための宅地分譲については、

## 大川町営住宅の整備を複数形態を備えた住宅で

**畠山議員** 大川の町営住宅は、老朽化や耐震性の問題から、空き家

町長 子育て世帯用棟、単身住宅棟など複数形態を備えた町営住宅の整備を検討したい。

に整備すべきだ。

町長 子育て世帯用棟、単身住宅棟など複数形態を備えた町営住宅の整備を検討したい。



# 支援金で国保税を減額に

はやしざき きょうじろう  
林 崎 寛次郎 議員

〈一問一答〉

## 引下げ行う時期ではない

伊達 町長

町の考えを問う

**林崎寛次郎議員** 昭和59年の国民健康保険法等の改正により国保の国庫負担率が引き下げられたことが、国保会計の財政運営に影響を及ぼしていると思う。このことについて、町財政への影響をどのように捉えているか。

**伊達町長** 国庫負担率の引き下げは、歳入減となる大きな改正であったものの、併せて財政調整交付金の見直しもあり、税率を改正することなく財政運営を行ってきた。併せて、制度改革を的確に把握し、被保険者への影響を出来るだけ最小限に留めるよう



医療費の支払いをしている様子

税率改正を行うことにも努めてきた。国保税の引下げについては、平成26年度に、国保税の軽減世帯の対象を拡大する対策を講じたところである。また、平成20年度末

に約4億円あった財政調整基金が、平成26年度末においては、1億5100万円まで減少していることから、今は引き下げを行う時期ではないと考えている。

### 高齢者医療費の無料化を町単独では考えていない

**林崎議員** 高齢者の医療費の削減が課題となっている。医療費を無料化している自治体のある議員は「医療をしっかりと受けられることで、一人当たりの年間の医療費は、東京都や国より低い」と話している。

**町長** 後期高齢者医療に加入する被保険者のうち、98パーセントが窓口負担1割となっている。また、1月当たりの自己負担限度額は70歳未満より優遇されている状況にあることから、医療費無料化は考えていない。

### そのほかの質問

■町長の政治姿勢について

# に意見が続出

第5回「議員と語る会」は、3月定例会の議会報告と、定住化・子育て等について若い世代と意見交換を行いました。各分野で出された意見の一部を紹介します。

## 学校統合はどよう進むのか

ると報告を受けた。

各地区の小中学校のPTAの皆さん22人が参加し、学校統合や通学時における「足」の確保等、身近な問題で活発な意見交換がなされました。

(座長 坂本 昇)

### 参加者の意見

- ▽人口減少が大きな課題である。通学や地域、子どものことを考えると学校統合の決断ができない。
- ▽統合するなら早いほうが良いと言っている子どももいる。

### 議員の発言

- ▽子育て支援住宅の着手が見込まれる。
- ▽岩泉町学校適正配置基本計画の内容が示され、今月から地域の意見を聞くために地域に入る予定であ



学校統合の問題に真剣に聞き入る出席者

## 通学手段の確保と学習機会の拡充

### 参加者の意見

- ▽小学校はスクールバスだが、中学校になると町民バスの利用になる。部活動終了後では、バス時間間に合わない。(鼠入地区)
- ▽土・日もスクールバスの対応がある。(大川地区)
- ▽高校生にもバスの対応が欲しい。(釜津田地区)

### 議員の発言

- ▽統合条件等に関わら

ず、均衡あるスクールバスの対応が望まれる。

- ▽町が岩泉高校に通学費を支援していることから、バスの対応が可能などうか調査する。

## 生活安全の対応を

### 参加者の意見

- ▽自転車通学は、被害者にも加害者にもなる恐れがある。保険料はあまり高くないので、加入を検討すべき。
- ▽自宅で井戸水を利用しているのでピロリ菌が心配。

### 議員の発言

- ▽自転車保険は免許交付とともに義務化できないか。
- ▽水道の本管が通ってれば、つなげられる。上下水道課に相談を。



ささき ともこ 佐々木さち子さん (釜津田・48歳)

部門別なので、意見も出せたし、伝わったと思う。他校の人とも知り合えて良かった。議員の皆さんは、課題について対応して欲しい。

**PTA**  
6月17日  
開催

# 第2回分野別 議員と語る会

# 定住化促進

職業が異なる22人の若者が集まり、意見交換を行いました。

岩泉町への熱い想いを積極的に堂々と発言する姿に頼もしさを感ずるとともにエネルギーが湧き、若者の魅力を再確認しました。

まとめでは、議員から参加者への感謝と若い力に期待する発言がありました。

(座長 野館 泰喜)

ふるさとへの想い

- ▽親には反対されたが、牛の世話をしたくて帰ってきた。小さい時の体験が大事。
- ▽親からは家業を継げとは言われなかったが、酪農に魅力を感じて戻って来た。
- ▽復興に関わった仕事をしたくて帰ってきた。
- ▽外の世界を知ってから帰って来ることも大切なことである。

若者

6月18日  
開催

## 魅力づくりと 住まいの確保が不可欠



復興の仕事に関わりたいと語る桜木さん

住みやすくするために

▽若者が出て行かないようにすることも大事だが、町外の人が住みたくなるような町になれば良いと思う。

▽魅力づくりも大事だが、根本的に住むと

ころが少ない。町営住宅に入居した人が所得制限で退去を迫られている。他町村へ転出するきっかけになるのでは。

▽施策を実施する時には、期日を示さないと、不安や不満を抱えて転出する人が増えていくのではないか。

▽岩泉の魅力は自然であり、広葉樹が多いこと。定住化は所得の確保、特にも林業の所得向上が必要。

▽商工会青年部では、ハッピープロジェクトを進めているので、皆さんに参加して欲しい。

▽就職や住まい

さとう はじめ  
佐藤 大さん (岩泉・28歳)



知らない人が多かった。型通りのやりとりを行うのかと思っていたが、しっかりした意見交換の場になっていて良かった。

の問題など相談できる場所がないので、専門的な窓口が欲しい。

▽道路をもっと整備することや除雪をしつかりすることを望む。

▽地域づくり、定住化には若者を応援する体制づくりが必要である。

▽少子化が進んでいるので学区を超えた入学を希望する。

# テーマを決めてワークショップ

**高校**

6月16日  
開催



いかに実践するか意見を出し合う生徒たち

## テーマ1 岩泉のPR活動 岩泉の素材を生かす

生徒20人が4班に分かれ、テーマに沿って意見を出し合いました。茂庭校長先生からのヒントを基に、データの分析・課題の検討・行動と反映を念頭に話し合いました。

「食材やイベント、施設やアニメキャラ・施設整備・文化振興等」でのPRが挙げられ、分野別に集計しました。また「岩泉高校のPR」が大切であるとの意見もたくさん出しました。

これら若い世代のアイデアを町政に反映するよう気持ちを引き締めたところです。

(1班班長 八重樫龍介)  
(2班班長 坂本 昇)

## テーマ2 龍泉洞の周辺整備 恋人の聖地物語を

メンバー全員で事前に課題と対策について話し合いをしていました。

課題は、①恋人の聖地の活用、②観光スポット不足、③滞在時間の短さ、④子どもの遊び場がない、⑤周りがさみしいことが挙げ

られました。

解決のために、①恋人の聖地物語を作る。

②カフェを作る。③④⑤はツリークライミングを行うことでした。簡条書きでまとめてあったので、少しでも改善方法をアドバイスするだけでまとまり、

あと何回かワークショップを行うことで具現化できると思っています。

(3班班長 三田地久志)



**岩泉で役に立ちたい**

お世話 かいせい  
大下 開生さん  
(岩泉・16歳)

自分たちが何をすべきか考える機会になった。岩泉が好きだから、消防士を目指し、地域の役に立ちたい。

## テーマ3 高齢者の住みやすいまちづくり 交流の場の拡大

P D C Aサイクルの実践力をつけるために、行動する(DO)ことに重点を置いて話し合いました。

「高齢者との交流の場を増やしたい」ということから、郷土料理を

習うことに。手順は、高齢者に教えてもらい、泉高祭の模擬店で販売するという内容です。

動画をつくり、ぴーちゃんねつとを利用し、宣伝活動をするという計画を立てました。

活発な意見交

換のあと、具体的なところまで詰められ、当初の目的は達成されたと思います。

発表する高校生

(4班班長 野館泰喜)





## 人権擁護委員の推薦



きむら かずえこ  
木村 一枝子さん



おののてら まさと  
小野寺 正登さん

人権擁護委員の候補者に、安家の小野寺正登さん（73）と岩泉の木村一枝子さん（67）を推薦することになりました。

同委員は町が議会の意見を聞き、法務大臣に推薦することになっています。

小野寺さんと木村さんは9月30日で任期満了となるため、再度候補者として推薦するものです。

任期は、法務大臣が委嘱した日から3年間です。

## 第2回臨時会

### 龍泉洞の周辺整備に 2007万円を



### 第2回臨時会

2回臨時会は、3月19日に開かれました。

この臨時会では、補正予算が提出され、全会一致で原案のとおり可決しました。

#### ■補正予算の主な内容

▼龍泉洞駐車場等整備工事費  
1499万円



駐車場が整備され、龍泉洞への往来が便利になりました（龍泉洞まつり）

## 岩泉のへえ〜!



玉響付近の様子（龍泉洞）

龍泉洞から1秒間に流れ出す水の量は「玉響」付近で最大1.5トン。その量は、500ミリリットルのペットボトルに換算すると3000本になり、一般家庭のお風呂の水量にすると約5杯分に相当します。

1秒間に凄い量の水が洞内から流れ出ていることに驚きです。

（三田地久志）

1秒間に1.1〜1.5トン

岩泉のへえ〜を持参  
または郵送で受け付けします。

〒027-0595（住所不要）  
岩泉町役場議会事務局

# ひとまひとインタビュー

6月定例会の傍聴者数はのべ45人でした。傍聴された方の中から、門の田代久枝さんに傍聴した感想などをインタビューしました。



たしる ひさえ  
田代 久枝さん  
(門・69歳)

## また傍聴に行きたくなる議会

―傍聴のきっかけは。

田代 一般質問の方法が変わったというので大変興味を持ち、一度傍聴したいと思っていました。

門町婦人会の役員会で話したところ、ぜひ傍聴したいという意見が多く、小川地域振興協議会24人で傍聴することになりました。

―傍聴された感想はどうでしたか。

田代 都会の高齢者が岩泉町へ移り住むように取り組みを行い岩泉町が将来消滅しないようにする施策のことや1次産業の活性化、小川地区の公共施設の再編のこと、保健所の営業許可のこと等々、大きいことから小さいことまで色々知ることができました。

―一緒に行った人たちと「また傍聴に行きたいね」と話しています。

―議員に対する要望がありますか。

田代 議員の皆さんは、発言したことに自覚と責任を持って行動して欲しいと思います。

―議会や町政に対する要望などはありますか。

田代 1次産業の活性化やCCRCについては、議員の皆さんと町職員が時間の許す限り話し合っ、地域に密着した政策を考えて実行していただきたいと思います。

## 議会を傍聴しませんか



議場を見学する大川小と釜津田小の児童たち

### 傍聴の手続きは簡単!

傍聴席の入り口で、名前と連絡先を書くだけです。放送設備の改修により、聴こえに不安のある人専用の席が9月定例会から設けられる予定です。



次の定例会は、**9月8日**から開催予定です

### 広報広聴常任委員会

委員長	合 砂 丈 司
副委員長	三 田 地 久 志
委員	八 重 樫 龍 介
	林 崎 竟 次 郎
	野 館 泰 喜
	坂 本 昇

### 編集後記

来年夏の参議院選挙から、選挙権が18歳以上に引き下がります。これを見据えたかの如く、岩泉町議会では若者と、そして岩泉高校生とは、昨年に引き続き今年も「議員と語る会」を行うことができました。

若者が抱えている課題、要望。高校生のアイデア等、少子高齢化の中で、社会保障の担い手である「若い世代」の声を聴くことができた貴重な体験でありました。

(広報広聴常任委員 八重樫龍介)

### 表紙の写真

釜津田・外山地区の佐藤崇さん一家です。短角牛の一貫経営と黒毛和牛の繁殖、さらには林業を家族で営んでいます。



古紙のリサイクルに取り組むオフィス町内会と、森林の再生に取り組む岩手県岩泉町との連携により実現した「森の町内会一問伐に寄与した紙」を使用しています。

いわいずみ 議会だより No.172 平成27年8月1日発行 発行/岩泉町議会 発行責任者/議長 加藤久民 編集/広報広聴常任委員会 千 027-0595 岩手県下閉伊郡岩泉町岩泉字惣畑59番地5 TEL 0194(22)2111 内線252 FAX 0194(22)5566 http://www.town.iwazumi.iwate.jp/